

「奈良県女性活躍推進に関する意識調査」結果のポイント

令和2年3月 奈良県 こども・女性局 女性活躍推進課

調査の内容

1. 調査目的

就労をはじめとする女性の社会参画に関する意識や実態を把握し、「奈良県女性の輝き・活躍促進計画（第3次奈良県男女共同参画計画）（平成28年度～令和2年度）」における施策効果の検証を行うとともに、**新たな計画策定（令和3年度～令和7年度）の基礎資料を得るために実施**

2. 調査対象

県内に居住する、令和元年9月1日時点で満20歳以上の男女3,500人
（男性1,750人、女性1,750人）

3. 調査項目

平成26年度に実施した「奈良県女性の社会参加に関する意識調査」の項目をベースに、下記の項目を中心に調査（調査項目：38項目）

- ・仕事と生活のバランスについて
- ・女性の生き方について
- ・「仕事」に関する考えについて
- ・男女の地域や家庭における役割等について 等

4. 調査方法

- 郵送法
- 調査期間：令和元年9月12日（木）～9月27日（金）
- 抽出方法：県内市町村から350地点を系統抽出し、当該地点内から各調査地区の選挙人名簿に基づき無作為抽出

5. 回収結果

配布数	回収数	無効票	有効回答数	有効回答率
3,500	1,444	5	1,439 女性 903 (62.8%) 男性 517 (35.9%) 無回答 19 (1.3%)	41.1%

6. 調査結果の比較

今回の調査結果について、比較対象とした調査は以下のとおり

- 県調査
 - ・奈良県女性の社会参加に関する意識調査（平成26年度）
- 国調査
 - ・男女共同参画社会に関する世論調査（令和元年度）
 - ・企業等における仕事と生活の調和に関する調査（平成30年度）

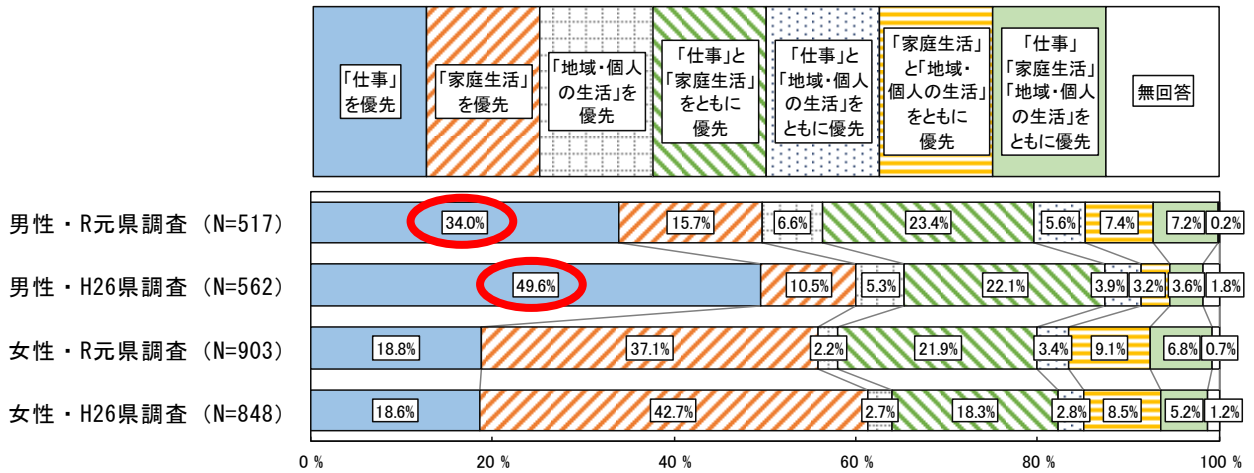
2つの国調査については、県調査とは調査対象や方法が異なるため、結果の単純比較はできないが、参考データとして比較。なお、質問の項目については比較対象の調査と合わせている。

調査結果のポイント

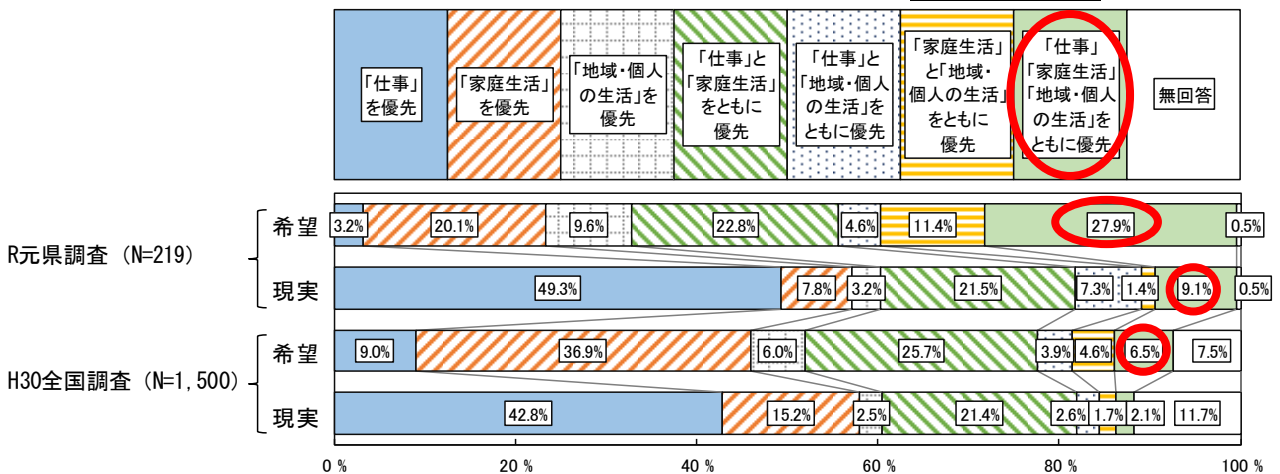
1. 仕事と生活のバランスについて (生活の中での「仕事」・「家庭生活」・「地域・個人の生活」の優先度(希望・現実))

- ◆ 男性は「仕事」、女性は「家庭生活」を優先しているが、「仕事」を優先している男性の割合は前回調査より約15ポイント減少(下記図表A)
- ◆ 「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」を3つとも優先したいと思っているのは、男女別・就労形態別すべての中で、女性の正規職員の割合が一番高く約3割。また、その割合は全国よりも20ポイント以上高い。しかし現状をみると優先できているのは1割以下(下記図表B)

【図表A 「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度(現実)】



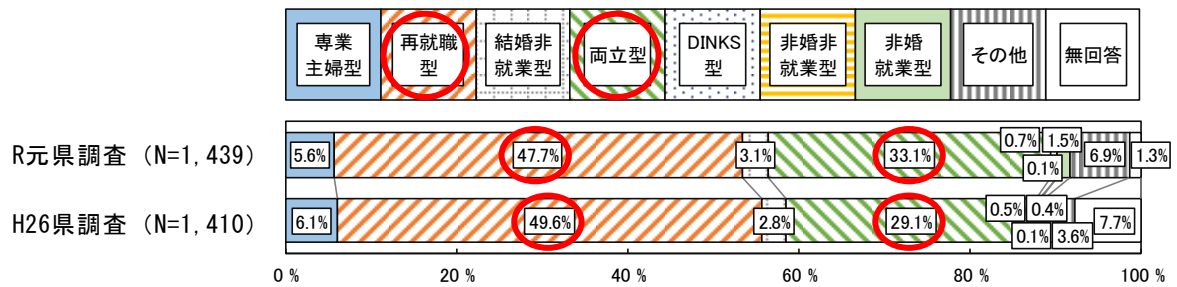
【図表B 「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度(女性・正規職員)】



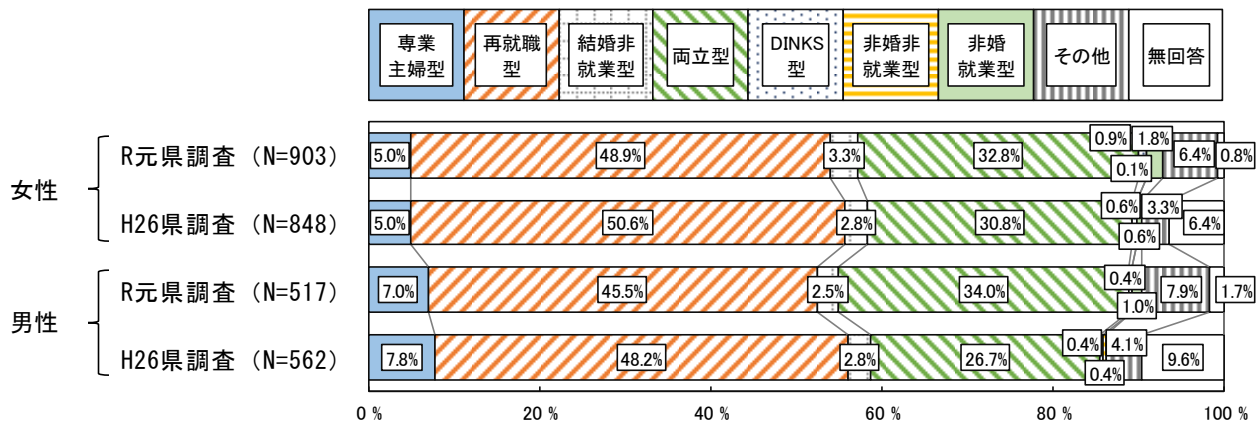
2. 女性の生き方について

- ◆ 「女性の生き方」の理想については、「再就職型」（出産前後に退職し、子育て後に再び仕事を持つ）が1位だが、前回調査よりも減少。2位の「両立型」（結婚し子どもを持つが、仕事を続ける）は前回調査よりも増加（下記図表C）
- ◆ 男女別にみても、差はみられない

【図表C 望ましいと思う女性の生き方】



(男女別、前回比較)



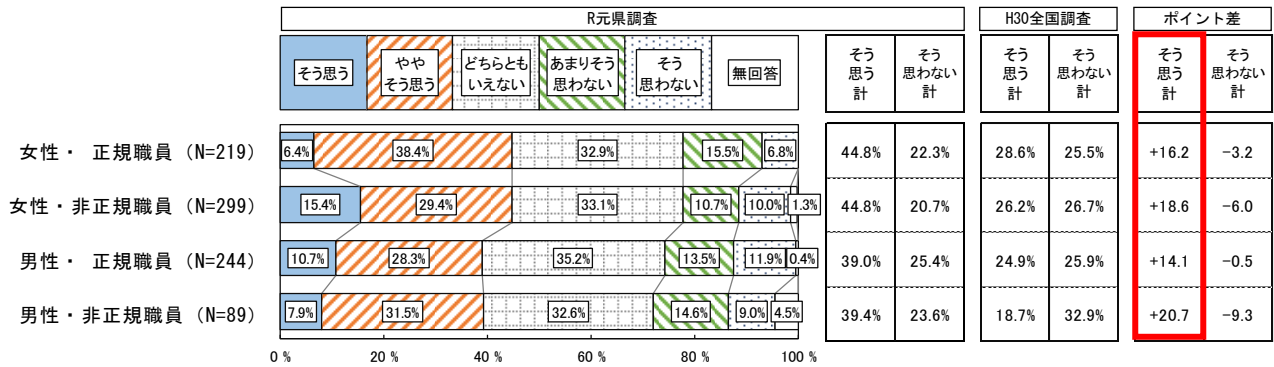
- 専業主婦型 : 結婚し子どもを持ち、結婚あるいは出産の機会に退職し、その後は仕事を持たない
- 再就職型 : 結婚し子どもを持つが、結婚あるいは出産の機会に一旦退職し、子育て後に再び仕事を持つ
- 結婚非就業型 : 結婚し子どもを持つが、仕事を持たない、または、結婚し子どもを持たず、仕事を持たない
- 両立型 : 結婚し子どもを持つが、仕事を続ける
- DINKS型 : 結婚し子どもは持たず、仕事を続ける
- 非婚非就業型 : 結婚せず、仕事を持たない
- 非婚就業型 : 結婚せず、仕事を続ける
- その他 : その他

3. 「仕事」に関する考えについて（有業者）

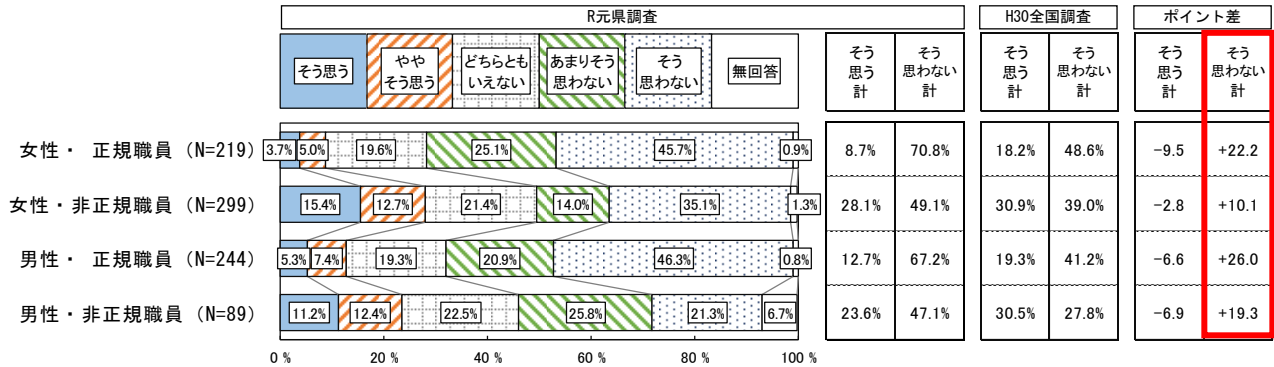
3-1. 「働き方」と「職場の様子」についての意識（全国比較）

- ◆ 「自分の働き方」については、男女・正規/非正規に関わらず、全国よりも仕事で「自分の意欲や能力を十分に活かせる」と思っており（ポイント差 14.1～20.7）、また「雇用状況が安定している」と思っている（ポイント差 10.1～26.0、特に男性の正規職員は 26.0 ポイント差）（下記図表D・E）
- ◆ 「自分の職場」については、男女・正規/非正規に関わらず、全国よりも「男女ともに活躍できる」と思っている割合が10ポイント以上高く、特に、男女とも正規職員では約20ポイント高い（下記図表F）

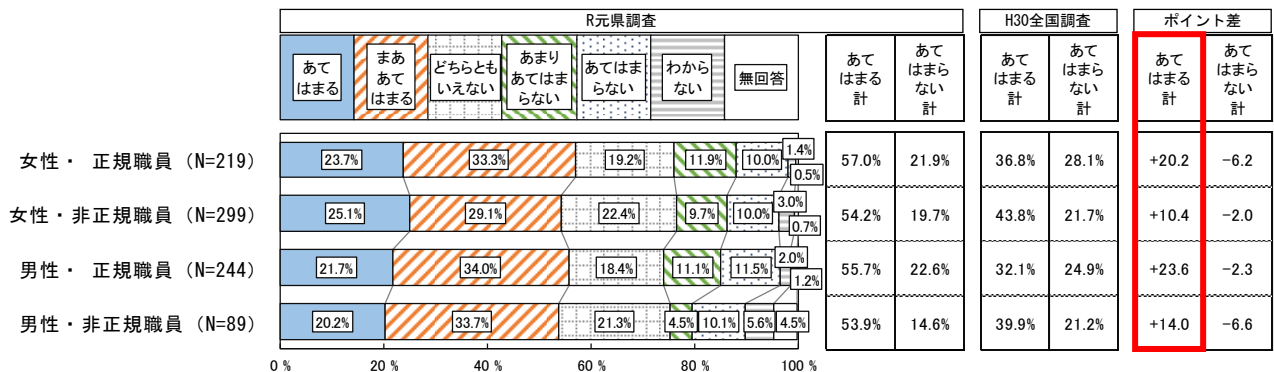
【図表D 自分の意欲や能力を十分に活かせると思うか】



【図表E 雇用や就労が安定していないと思うか】



【図表F あなたの職場は男女ともに活躍できると思うか】



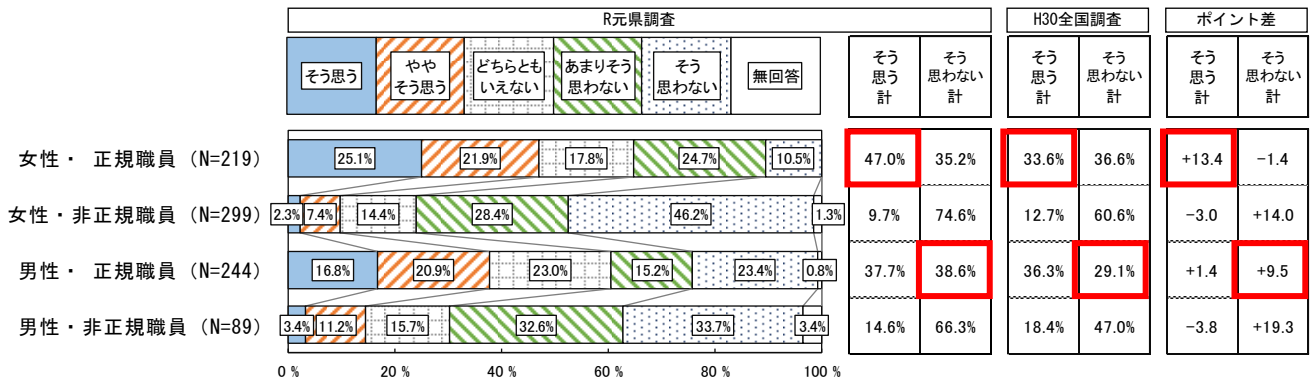
※図表D～F [H30 全国調査] 女性・正規職員 (N=1,500) 女性・非正規職員 (N=500) 男性・正規職員 (N=1,500) 男性・非正規職員 (N=500)

(前ページからの続き)

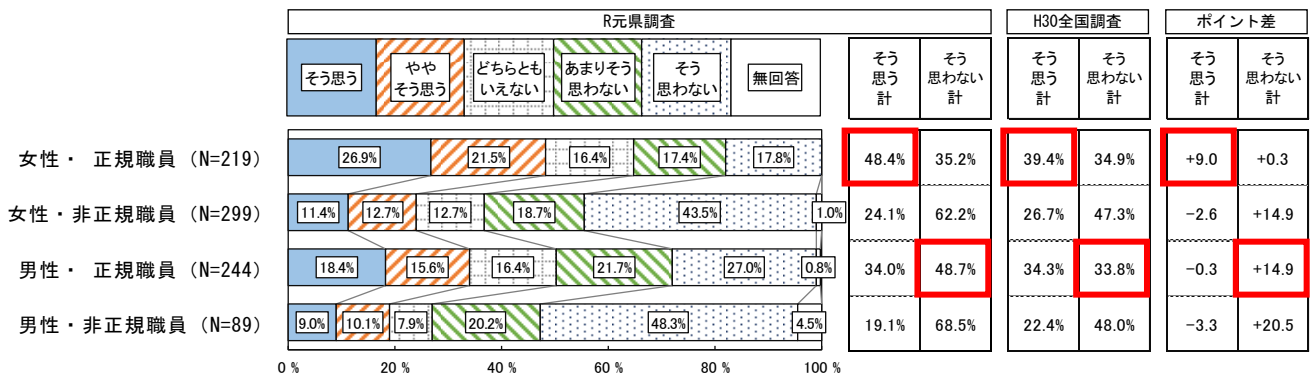
3-2. 「働き方」についての意識 (男女別・就労形態別、全国比較)

- ◆ 男性の正規職員は、「労働時間」「休暇の取りやすさ」「通勤時間」の点において、全国よりも負担を感じておらず、その差は10ポイント程度(下記図表G・H、次頁図表I)
- ◆ 女性の正規職員は、「労働時間」「休暇の取りやすさ」の点において、全国よりも負担を感じており、その差は10ポイント程度(下記図表G・H)
- ◆ 男女別・就労形態別の中で最も「働き方を変えたい」と思っているのは、女性の正規職員で、全国よりも約20ポイント高い(次頁図表J)
- ◆ 女性の非正規職員は、配偶者の仕事や収入に合わせ仕事を調整しており、全国よりも約20ポイント以上高い(次頁図表K)

【図表G 労働時間が長いと思うか】

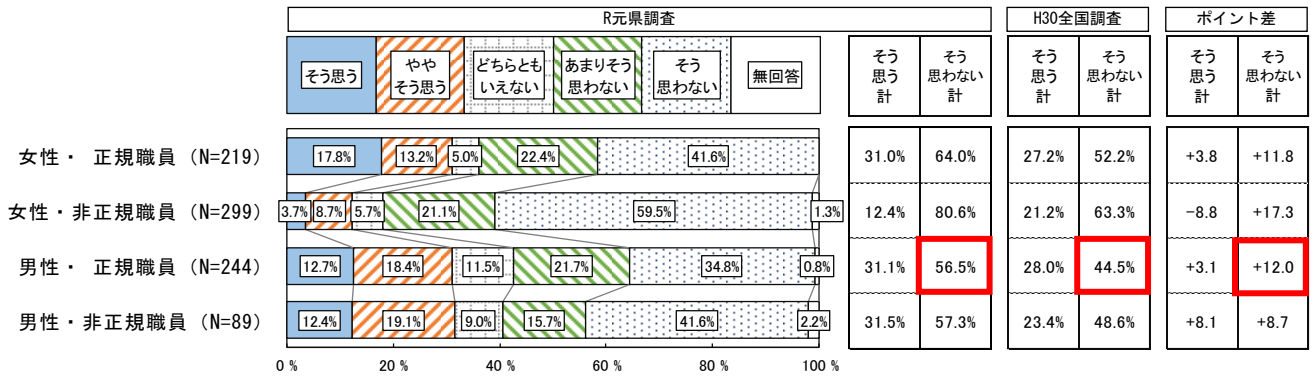


【図表H 休暇が取りにくいと思うか】

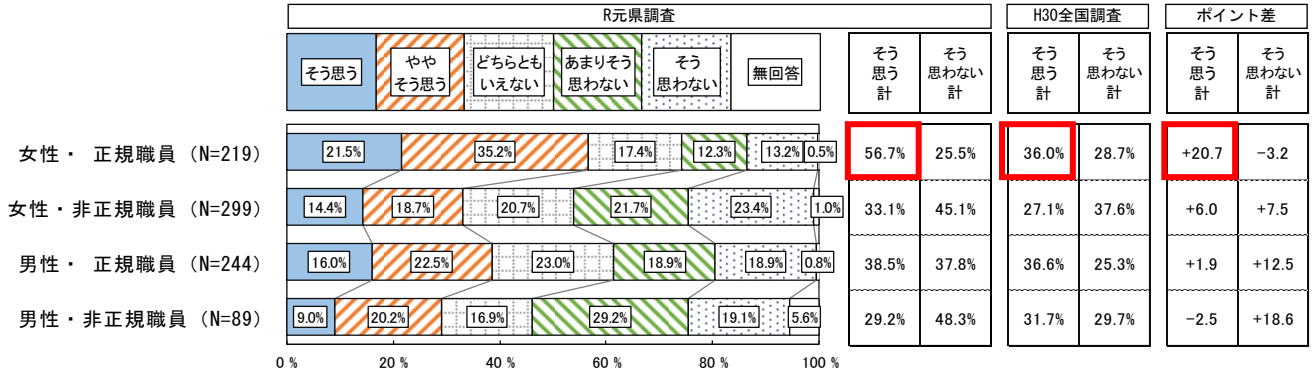


(前ページからの続き)

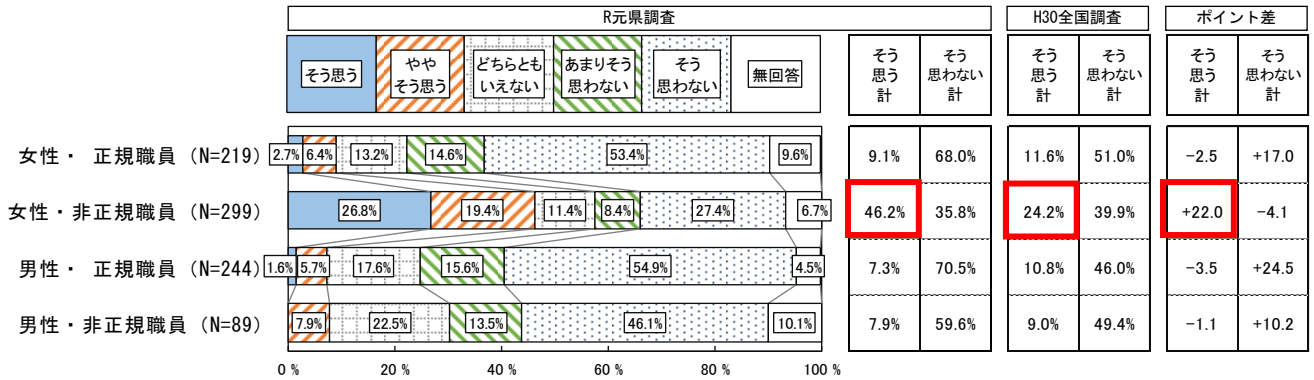
【図表 I 通勤時間が長いと思うか】



【図表 J 働き方を変えたいと思うか】



【図表 K 配偶者の仕事の状況や収入に合わせて、自分の仕事を調整しているか】

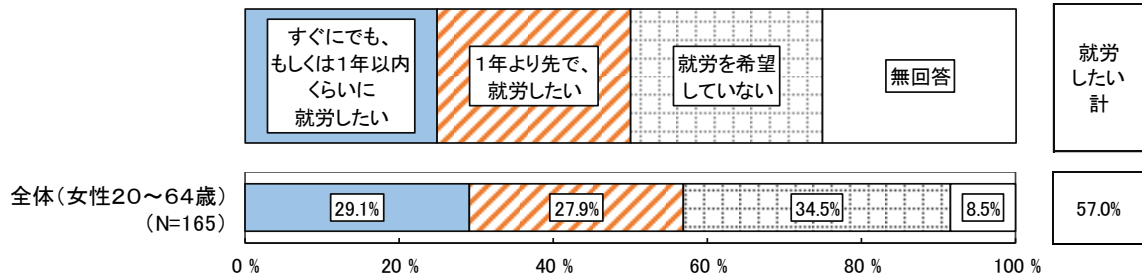


※図表 G~K [H30 全国調査] 女性・正規職員 (N=1,500) 女性・非正規職員 (N=500) 男性・正規職員 (N=1,500) 男性・非正規職員 (N=500)

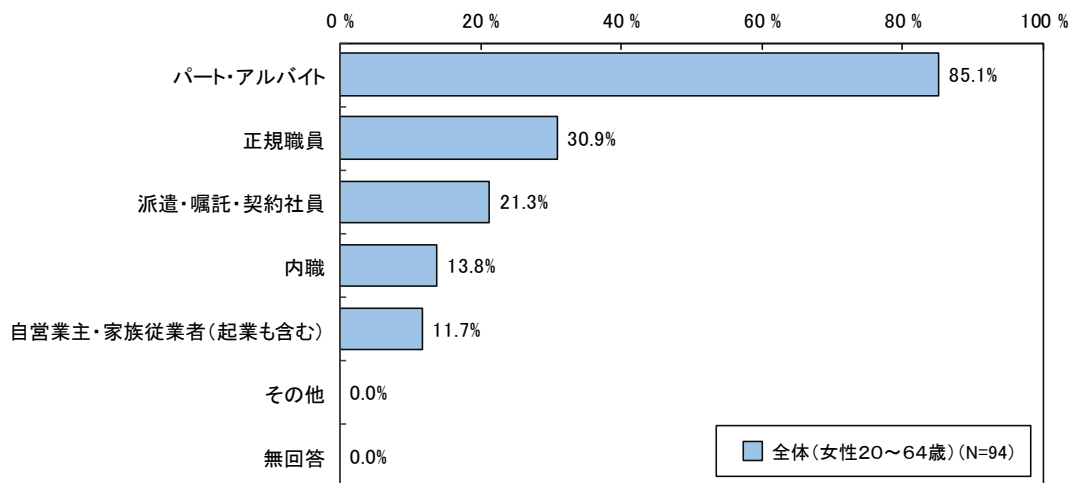
4. 「仕事」に関する考えについて（女性の無業者）

- ◆ 20～64歳の女性の無業者のうち、今後就労を希望する女性は約6割（下記図表L）
- ◆ 今後就労を希望する女性が望む雇用形態は「パート・アルバイト」が特に多く、職種の希望は「事務」、「サービス等」、「教育」の順（下記図表M・N）

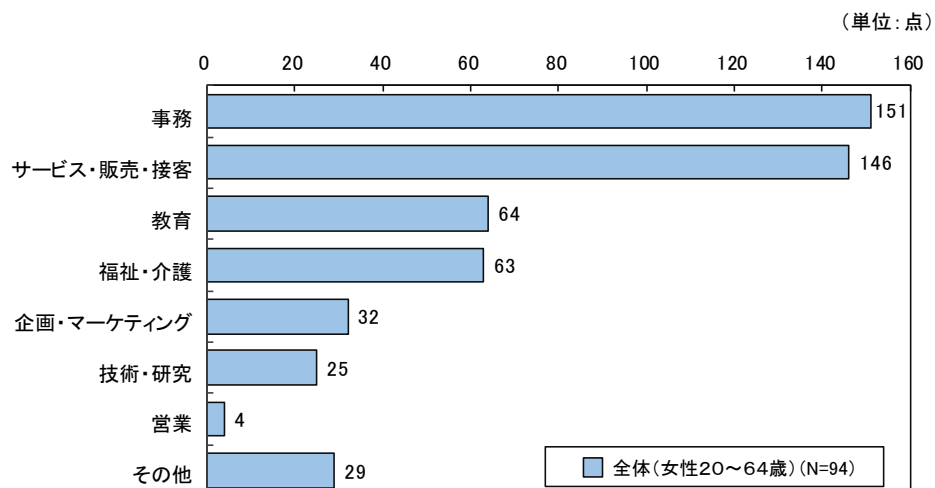
【図表L 今後の就労希望】



【図表M 希望する雇用形態】（複数回答）



【図表N 希望する職種】（複数回答）

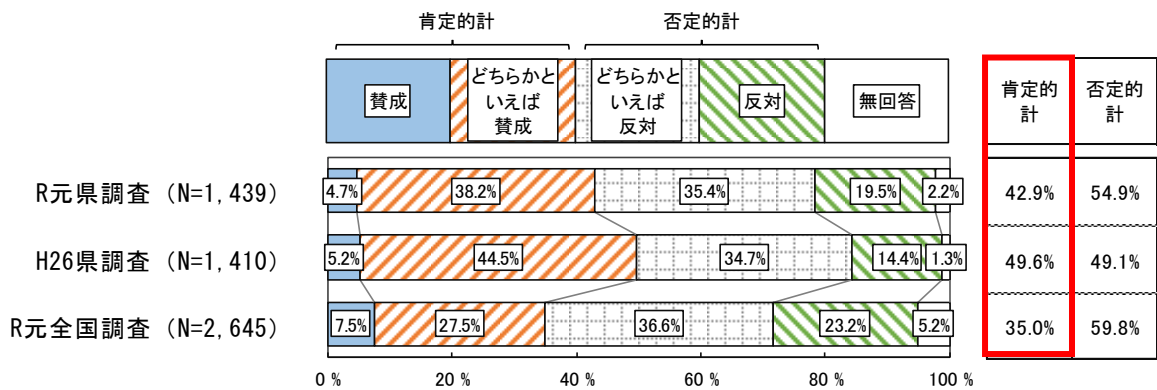


※就労意向女性(20～64歳)ベース
 ※第一希望=3点、第二希望=2点、第三希望=1点として点数換算

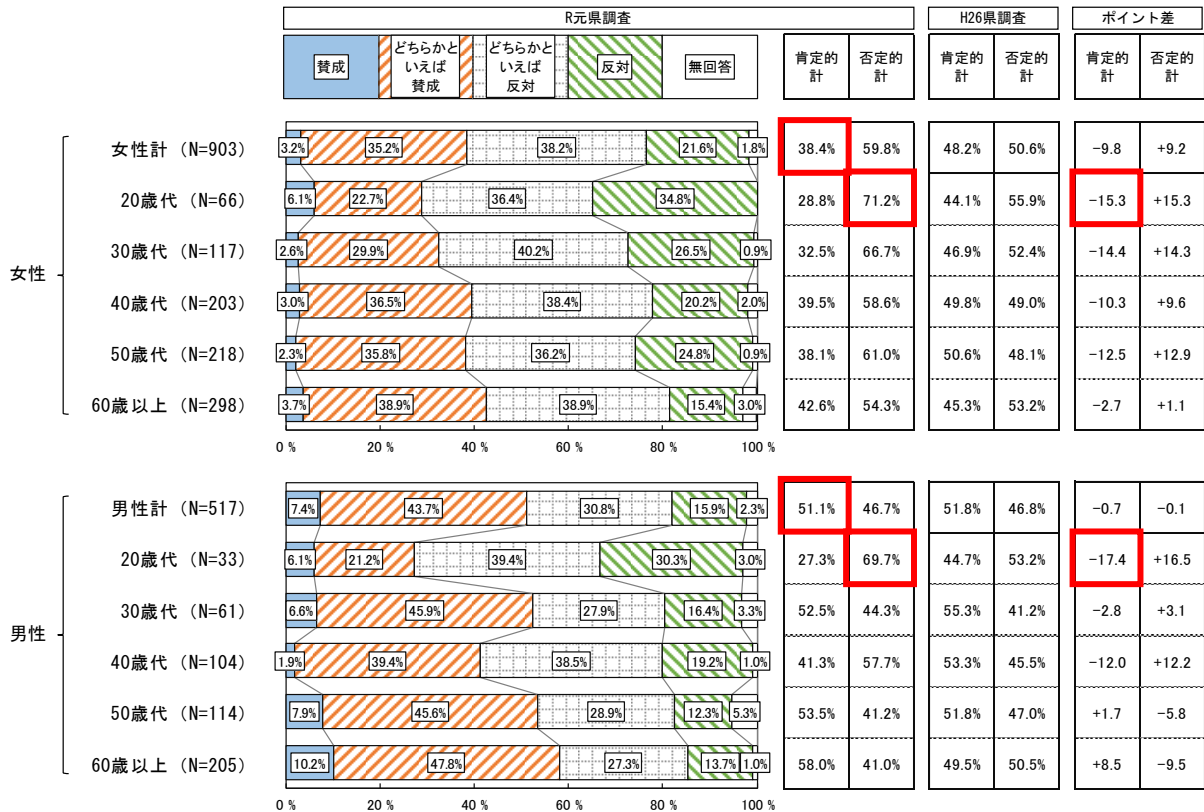
5. 固定的性別役割分担意識について

- ◆ 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という固定的性別役割分担意識に肯定的な人の割合は42.9%で、前回調査よりも6.7ポイント減少したが、全国に比べ7.9ポイント高い（下記図表○）
- ◆ 肯定的な人の割合を男女別で見ると、男性は女性より12.7ポイント高い
- ◆ 固定的性別役割分担意識に否定的なのは、男女別・年代別すべての中で1位が女性の20歳代で71.2%、2位が男性の20歳代で69.7%。これは、前回調査と比べると、いずれも15ポイント以上の増加

【図表○ 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方について】



(男女・年代別、前回比較)



※図表○ [H26県調査] 女性計 (N=848) 20歳代 (N=59) 30歳代 (N=147) 40歳代 (N=257) 50歳代 (N=243) 60歳以上 (N=140)
男性計 (N=562) 20歳代 (N=47) 30歳代 (N=85) 40歳代 (N=165) 50歳代 (N=166) 60歳以上 (N=99)

6. 男女の地位の平等感について

- ◆ 教育に関する項目については、男女とも6割以上が「男女平等」と感じている（下記図表P）
- ◆ 「男性が優遇されている」と感じる人の割合が高いのは、男女ともに「政治の場」、「社会通念・慣習・しきたりなど」、「職場」の順で、いずれも5割を超えている
- ◆ 「男性が優遇されている」と感じる人の割合を男女で比較すると、女性は8項目すべてにおいて、男性よりもそう感じており、最も男女差が大きいのは「家庭生活」、次いで「法律や制度の上」となっている

【図表P 各分野の男女の地位の平等感】

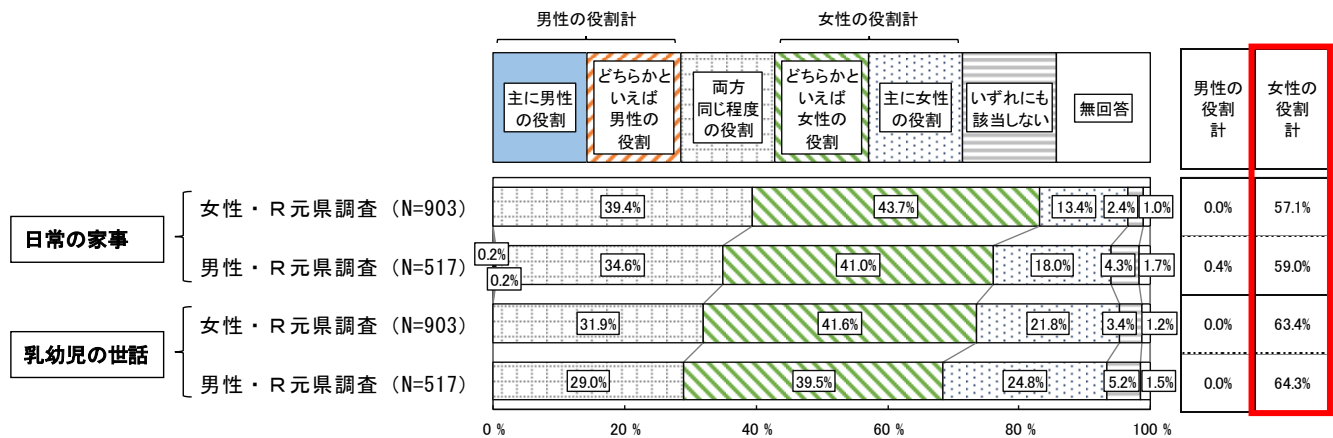


※ [R元全国調査] 女性 (N=1,407) 男性 (N=1,238)
 「②大学等への進学」については全国調査では設問なし

7. 男女の地域や家庭における役割等について

- ◆ 「日常の家事」と「乳幼児の世話」は、男性だけでなく女性においても、半数以上が女性の役割と「考えて」いる（下記図表Q）

【図表Q 性別役割の考え】



8. 今後必要な施策等について

- ◆ 女性が職場で活躍するために必要だと考える1位は「両立支援制度が整っていること」で、2位は「職場の上司・同僚の理解」

1位「子育て・介護との両立についての職場の支援制度が整っていること」(68.3%)、2位「職場の上司・同僚が、女性が働くことについて理解があること」(58.0%)、3位「仕事が適正に評価されること」(50.3%)。

※男女計での回答者割合（複数回答）

- ◆ 男女がともに活躍できる奈良県にするために、今後行政が力を入れていくべきと考える1位は「子育てや介護中であっても仕事が続けられるよう支援する」こと

1位「子育てや介護中であっても仕事が続けられるよう支援する」(57.3%)、2位「子育てや介護等でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」(48.4%)、3位「保育の施設・サービスや放課後児童クラブを充実する」(47.0%)。

※男女計での回答者割合（複数回答）

協力有識者

今回の調査結果をまとめるにあたり、下記有識者の協力を得た。

奈良県立大学地域創造学部 梅田 直美 准教授

大阪教育大学教育学部 小崎 恭弘 准教授

関西大学文学部 多賀 太 教授

立命館大学産業社会学部 筒井 淳也 教授 (五十音順)

なお、有識者意見については、関連する結果概要に合わせて、囲み記事で掲載している。